

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
(TEL) 6765-8904  
(FAX) 6765-8905

## 第300回青年フェスタ

# ロボットとして動かされるのではなく、 自分で考えられる子どもに



鉄腕アトムの人形を置き  
講演する宮下聡さん

記念すべき第300回の青年フェスタが、2月16日(土)、17日(日)に箕面温泉観光ホテルで開催されました。大障教からも、たくさんの方々が参加しました。

全体会は、都留文科大学の宮下聡さんのお話を聞きました。鉄腕アトムのように自分で考えられる子を育てようというテーマでのお話でした。例えば、教師は「教科書を忘れました」と言ってきた子どもに、すぐに教科書を貸し与えるように、私たちは知らず知らずのうちに子どもに次の行動を考えさせないで、「こちらから次の手を差し伸べているのではないか」という話が印象的でした。

レポート交流会「特別支援学校(肢体・病弱)」の分科会では、東大阪支援中学部と、茨木支援中学部の先生が発表しました。東大阪の発表では、まず、子どもたちが授業に興味を持って「見て」くれるようにおこなった、VRやARのアプリやYoutubeを使ったVR体験の画像を紹介しました。また、ものを「追視」できるように、簡単に飛ばせる教材を、参加者全員で実際に作る体験もしました。

茨木の発表では、担当している子どもの自立活動・授業・給食の場面でのとりくみと課題を紹介しました。発達障害と医療的ケアの子どもの混在する中での連携の難しさなどの問題点もあげ、みんなで話し合いました。

レポート交流会「特別支援

学校(知的)の分科会では、寝屋川支援小学部、枚方支援高等部の先生方がそれぞれ「支援学校の入り口と出口を経験して感じたこと」、「書道の授業で仲間作り」のテーマで発表しました。

1本目のレポートでは、知的の小学部を経験した後に高等支援学校へ赴任、その後再び小学部に勤務という経験の中で感じたことのレポートでした。卒業後にどんな力が必要なのか、そして小学部で丁寧にとりくまれていく基本的な生活習慣の確立や身辺自立

に向けたとりくみの積み重ねこそが、卒業後自分らしく長く働くために必要な力ではないかと発表しました。

2本目のレポートは、授業を飛び出してしまふ生徒もいる中で、教師も生徒も楽しめる授業を目指したとりくみのレポートでした。書道の授業の中で「綺麗に書かないといけない」と不安を感じていた生徒たちに、自由に、楽しんで書いて欲しいと伝えることで、生徒が変わっていった様子や、「先生」という題でのびのび楽しんで書かれた生徒たちの作品を紹介しました。

質疑応答の時間には、2つのレポートどちらも多くの感想が上がり、小グループに分かれての分散会では、どのグループも大いに盛り上がりました。

### 感想です！

- 甘やかさず「子どもを信じて待つこと」の大変さをいつも感じています。ついつい大人の都合を優先してしまうのですが、初任のころに「子どもを信じてあげて！」と怒られたことを思い出します。自分は子どものことを信じていないことに気付いてビックリしたことを覚えています。「子どもを信じて待つこと」を大切に、実子にも職場でもがんばっていこうと思います。
- 授業の実践を通して学年集団がまとまることのできた話が印象的でした。支援教育の中でキャリアや職業教育に力がそそがれ、人格ではなく人材を育てる方向に進んでしまっている気がします。その中で国語や理社など人格形成につながる授業の大切さを改めて感じました。
- 東大阪支援学校の先生の発表はICT教材紹介ということで、VRやARアプリを教えていただいた。動けない児童でも少し画面を動かすだけで見方が変わるのはおもしろいとおもった。茨木支援学校の先生の発表は、全盲の児童について、自立活動、視覚以外へのアプローチを意識した授業、摂食の姿勢に関するお話があった。保護者対応や学級運営の仕方等、多岐にわたるお話がきけたので、学校がかわるとまた違う問題があるのだと思った。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



コンビニ最大手のセブンイレブン・ジャパンが、「24時間営業」の見直し実験を始めます。「24時間営業」が成り立つかどうかは、店の立地条件・深夜営業の状況・加盟店オーナー家族の構成などで決まります。「24時間は嫌だ」と訴えるオーナーも珍しくなく、今は24時間コンビニとそうでないコンビニが併存する時代に入っています。24時間営業の原則見直しは当然だと言えます。

全国のコンビニオーナーなどをつくる「全国FC(フランチャイズチェーン)加盟店協会」は、1998年の結成以来、「営業時間、営業日は加盟店が選択できるようにすること」を要求してきました。365日休みなく働くなど、非人間的で「働き方改革」への逆行です。しかし、本部は休みなのに、加盟店は「24時間、365日」働くよう強制されているのが実態です。

FC産業のうちコンビニは5万5千店舗あり、その圧倒的多数のコンビニ加盟店は、家族経営型の小規模業者です。FC本部と加盟店の間で交わされる契約は、「契約前の説明が十分」「情報力に勝る優越的地位を利用した加盟店に対する『不利益の強制』」など多くの問題点があります。今、「加盟店協会は、加盟店の不利を補填する基本ルールの法制化を求めています」。

オーナーを20年もやれば、精神的にも肉体的にも健康が破壊されます。黒字経営のオーナーでも辞めたいという人がおり、「子どもには継がせたくない」と考える人が圧倒的です。人口が減る中で、「24時間、365日営業」が本当に健康で文化的な生活なのか、真剣に考える時かもしれません。

# 給食を実施するすべての学校に、 栄養教諭を複数配置することを求めて

## 栄養教員部 緊急要請提出



署名を手交する  
武田栄養教員部部長

2月22日、大阪府内で「栄養教諭の複数配置を求める緊急要請」をおこない、大障教栄養教員部3人と久保書記長が出席しました。

冒頭、栄養教員部部長の武田さんは「1校に1名しか栄養教諭がないために、現場は本当に大変で、病気になる人も休むに休めない、病気休暇中に引継ぎに学校に行っていた人もいる、交通事故で入院しても講師が見つからず、ベッドの上で献立を作成し医師の許可をもらい学校に行き仕事をしていた人もいます」と栄養教員の厳しい実態を述べ、緊急要請書を手交しました。

### 栄養教員の思いを府教委に届ける

参加した栄養教員全員から「小学校で1人4校かけ持ちでやっていた時より、府立の支援学校の方がずっと大変。初任者は誰にも頼れなくて苦労している。週3日の再任用の方と組むと、給食や食育の指導について勉強ができる」「月100時間から150時間残業された人もいます。発作を起して救急車で運ばれている人もいます。みんな体が疲弊していつ退職するかわからない」「新校の立ち上げを3校してきたが、安全安心な給食を作るために一から業者に説明をしなければならなかった。アレルギー対応も給食関係の書類もま

栄養教諭制度が創設（2005年）されて13年、学校における栄養教諭の果たす役割はますます重要になってきています。栄養教諭は食の安全性に配慮し、子どもたちの成長・発達を保障するため、豊かな学校給食が実施できるよう、努力を重ねてきました。栄養教諭は、食物アレルギーを含むきめ細やかな安全管理が求められ、特に支援学校では段階食など個別の課題への対応のため、膨大な業務を強いられています。

このような実態があるにもかかわらず、栄養教諭は各校に1人配置であるため、休みを取ると現場が大変混乱する状況となる上に、栄養教諭の病休や介護休暇等の代替者は栄養教諭が配置されることはなく、重い責任を不安定雇用の「臨時技師」に負わせているのが実態です。

また寄宿舎設置校については給食に加えて朝・晩の舎食の献立業務の負担を考えると緊急に複数配置が必要であると強く求めました。

久保書記長は「支援学校の現場からその大変さを聴いてもらった。アレルギー対応に加えて、肢体不自由校で実施している段階食は、他の障害の支援学校でも実施するようになってきている。さらに、寄宿舎のある学校は朝・晩の献立が加わる。早急に対応してほしい」と訴えました。

要請書手交後、「若い人がどうなるか、事故が起こらないか本当に心配。早急に複数配置が必要」と決意を固めました。

## 全国青年教職員学習交流集会に参加して

光陽支援学校分会 吉松 薫

広島で開催の全国青年教職員学習交流集会「TANE!」に参加しました。全体会は、16歳の時に被爆した、吉岡さんのお話と、ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダーの林田さんと青年教員の対談でした。

吉岡さんは、市内へ作業をしに行く日を、副級長だった自分と級長がジャンケンをして決め、8月5日に行った自分の班は助かり、8月6日に行った仲間は亡くなったということがずっと重荷になっていたそうです。戦後、労働組合に入り、仲間に被爆体験を語って欲しいと言われたことで、少しずつ思いを出していくことができたようです。「原爆は他の爆弾とは違うということを伝えて欲しい」という言葉が印象的でした。私自身、原爆が恐ろしいということは物心ついた時から理解しているつもりでしたが、「たった1発」という言葉の重さには、この日気付かされました。

2日目はフィールドワークに参加し、平和公園内にある碑巡りをしました。碑巡りでは、『いしぶみ』という映像で知っていた、県立第二中学校の碑を見た時、碑にかかれたたくさんの子どもたち一人一人に様々なエピソードがあるという、映像での語りを思い出しぐっとくるものがありました。戦争の道具として使われていた、まだまだ未来のあった命の犠牲から、私たちは同じ過ちを繰り返さないことを改めて誓いたいと思いました。

春いちばん FROM

OSAKA

## 2・27大阪市内2019年春闘宣言集会

加し、大障教から5人が参加しました。

オープニングは、寄宿舎教員が多数メンバーに所属している、太鼓サークル「土塊鼓（どこんこ）」による獅子舞が会場を練り歩きました。

講演は、「暴け！ご飯論法 安倍政権の本質を暴き、どうたたかうのかー労働組合への期待とその役割」と題して上西充子さん（法政大学教授）が『働き方改



革』は労働基準法の破壊であり、戦後の労働行政の敗北」と強調しました。「1分間スピーチ」では久保書記長が「大阪市内立特別支援学校の府移管は、『弱いものを切り捨てる』維新政治のやり方の際たるもの。こんな政治はみんなの力で終わらせよう」と訴えました。集会の最後は、恒例の「当たり券付き餅まき」で会場は大いに盛り上がりました。

2月27日、「消費税あげるな！賃金上げろ！」「憲法変えるな！政治を変えろ！」と、大阪市内2019年春闘宣言集会が開催され、120人を超える労働者が参